

## こども園・保育所へのアンケートより

### 1 保育・教育活動について（在籍園児数にから生じる課題と効果について）

#### (1) メリット

##### ■在園児50人以下の場合

- ・少人数のため、一人一人に丁寧に関わり対応することができる。
- ・縦割り活動の中で、異年齢の関わりが深められる。
- ・乳児については、きめ細やかな対応やゆったりとした生活の流れなど家庭的な雰囲気が生かされていると感じている。
- ・少人数の良さを生かし、発達段階に応じたきめ細かな指導ができる。
- ・3～5歳児のかかわりが多くもてる。異年齢保育を通して、年長の子は年少の子の面倒を見たり、やさしく接することができる。
- ・園児数が少ないので、一人一人に丁寧に関わることができ、待つ保育がやりやすく、子どもと保育士との信頼関係が深くなり、子どもたちはゆったりと安心して過ごすことができる。
- ・教育活動も一人に対する関わり（指導時間）を長くとることができる。
- ・子どもが大勢いる園より、一つの活動に要する時間が短く、1日のうちに様々な活動が入っても、無理なくできる。
- ・職員の共通理解がしやすい。他のクラスの理解もしやすいため、協力体制もとれる。
- ・人数が多い園に比べ、保育教諭の負担が少ない。
- ・園運営に対しては、職員間の話し合いも十分でき、共通理解して保育・教育が行われる。
- ・異年齢での保育の良さがある。
- ・行事は、少人数のため行いやすい。（保護者参加についても）
- ・園運営では、事務処理に係る時間が少なく、子どもと関わる時間や研修の時間が多くの場合

丁寧・異年齢のかかわり・きめ細やか・ゆったり・信頼関係・待つ保育  
子どもと向き合う時間・共通理解・負担が少ない

##### ■在園児51人から100人以下の場合

- ・ある程度の人数が幼稚組に在籍しているため、年齢ごとの保育・教育ができ、多すぎる人数でもないため、異年齢クラスとのかかわりを持つこともしやすい。
- ・子ども同士でもまれることもでき、一人一人の子どもを丁寧に見ることもできる。
- ・一クラスの園児数は、教育・保育にあたるには良い割合である。  
園児は伸び伸びと教育・保育を受け、異年齢でも同年齢でも切磋琢磨し合い良い、刺激

を受けながら毎日を過ごせている。

- ・本園は定員 90 名となっているが、現在は 64 名と減少している。しかし、保育室数や広さ等からすると、ゆったりと過ごすことができ、現在の園児数がちょうど良く感じている。
- ・各クラス（年齢）の在籍数においては、ばらつきがあるものの、10 名を超えており、活動しやすい。子どもたちの遊びや活動においては、友だちからの刺激を受けたり、助け合ったりすることができている。また、同年齢だけでなく、異年齢交流もしやすい園児数である。
- ・園行事を行う場合もちょうどよい家庭数である。
- ・今年度 0 歳児・2 歳児は複数担任で保育できる人数のため、クラス運営がしやすい。

年齢ごとの保育・教育、子ども同士でもまれる、丁寧に見る、良い割合、伸び伸びと、切磋琢磨し合い、刺激を受けながら、ちょうど良く、助け合ったり、異年齢交流  
ちょうど良い家庭数、クラス運営がしやすい

### ■在園児 100 人以上の場合

- ・幼児クラスは、20 人以上のクラス編成が可能なため、友だち同士の刺激があり、協同体験や伝える力、コミュニケーション能力など、将来「生きる力」の基礎となる力を育むことに効果的である。
- ・どのクラスも複数の職員を配置しているため、職員同士の情報交換、指導、研修ができる。
- ・昨年より、主任保育教諭が専任化されたことで、園運営についての分掌が明確になり、業務改善につながった。主任保育教諭は、園の保育・教育の質の向上のため、縁の下の力持ちとして多角的に子どもたちを支え、園長を補助し園の運営の大きな力になっている。
- ・たくさんの職員がいることで、助け合う、学びあう、知恵を出し合う、職員同士が切磋琢磨で成長する。

友達同士の刺激、協働体験、伝える力、コミュニケーション能力、「生きる力」を育む  
情報交換、研修、助け合う・学び合う、職員の切磋琢磨

### (2) デメリット

#### ■在園児 50 人以下の場合

- ・少人数になると活動が限られてくる。（チーム分けや競技ができない等）
- ・競い合うことや、集団で生活する経験、切磋琢磨する経験が得られない。
- ・年齢別保育がない。（各年齢の集団として遊びが成り立たない。）

- ・集団での育ちに欠ける。(特に幼児にとって、子どもの成長にとって必要な、子ども同士のぶつかり合いや心の成長、切磋琢磨する姿が見えにくい(少ない)。)
- ・現在5歳児は7名、4歳児も7名いるが、3歳児は4名、2歳児も4名なので集団としてなりたたない。子ども同士のかかわり、育ちには、10名以上の集団が好ましいと思う。
- ・小規模園で園児数も少なく、丁寧な保育を必要とする乳児はよかったです、同年齢のかかわりや集団での育ちを求める幼児組はやはりある程度人数がいないと難しいものがある。少人数なので気が合い結束したら強いものがあるが、仲間関係が決まるとなかなか関係を崩すことも難しく、伸び伸びと生活や遊びを楽しめないこともある。集団で育てたい、人とかかわる力や協同体験、葛藤や感動、折り合いをつける体験を十分できないままということもある。地域の中で育むことが難しくなってきている世の中、せめて集団の中での育ちを確保できるようになればと思う。
- ・大規模な園と比べると、保育士が子どもに十分に関われる分、子どもの自立心が育ちにくい。
- ・子ども同士の共同性やいろいろな考えの出し合い、共に競い合いながらの活動が希薄になる。
- ・園舎の老朽化から、修繕などに予算がかかる。また、少人数でも必要なものは園としてあるため予算が厳しい。
- ・土曜日は、登園する子どもが一人だけに対し、保育士2名と調理員の3名が出勤しなければならないのが、もったいない。
- ・園児同士、親同士で何かあると逃げ場がないように感じる。
- ・保育園舎と幼稚園舎が離れているため、免許を要する職員が必要となり確保が難しい。
- ・常勤職員が少なく一人の負担や責任が多い、毎日シフトに入る、週休日のシフトが組めない、欠席職員があると行事等困難になる。
- ・早朝・延長職員・週休年休代替職員の確保が困難、一時預かりや途中入所の受け入れが困難、調理代替(調理員一人職場は特に)や緊急時の職員確保が困難
- ・職員が少なく、早朝延長職員(早朝2名・延長2名)のシフトもあるため、二つの園舎の管理が困難。
- ・幼児クラスは、人数の少なさから混合クラスとなるため、保育教諭にとってかなり高度な知識や技術を要する。

活動が限られる、経験が得られない、年齢別保育ができない、集団の育ちにかける、集団として成り立たない、伸び伸びと楽しめない、体験を十分できない、自立心が育ちにくい、活動が希薄もったいない、逃げ場がない、職員の不足、2つの園舎、混合クラス

### ■在園児 51 人～100 人以下の場合

- ・現在の園児数からデメリットを感じていない。
- ・0歳児・1歳児がともに複数担任が必要な人数になると保育室が大変狭い。  
(室内に水道がないなど0歳児を保育するような保育室ではない。)
- ・昨今、多様性に富んだ園児が増えている。丁寧な教育・保育に努めているが園児数に対する職員配置では対応が難しいところも正直ある。
- ・園舎内外、とても広々としており窮屈感がないが、その反面、維持管理には大変さを感じている。また、日々の環境整備においては、職員だけでは限界を感じることも多々ある。また、築年数も22年を超え、修繕箇所も出てきている。
- 園児数に対する職員数のため、園児が減ると職員配置数も必然的に減るため、ますます管理が大変になると思われる。
- ・常勤の職員は、パートさんも入れて9名います。それでも早朝保育・延長保育・土曜日保育等があり、時間パートさんに入ってもらっています。
- 土曜日保育は、毎週1名～5名きますが、1名の時が多いです。1名でも、保育教諭が2名と調理員が必要です。
- 土曜日出勤すると、週休をとります。代替職員の確保が難しい。
- ・幼児クラスは特に、一人担任になってしまうことが多いが、園舎が離れていることもあります、一人にかかる仕事・責任が大きくなるように感じる。(園外に出るときには、他クラスから職員を頼まなければいけない。)
- ・土曜日、園児1名出席であっても、早出職員2名・延長までいる職員2名・調理員1名計5名の職員が必要となる。(週のうちに3名ないし4名の職員が休みを取らなければならず、平日の保育がしにくいときもある。)

デメリットは感じない  
施設管理、土曜保育、2つの園舎、職員の不足

### ■在園児 100 人以上の場合

- ・正しい職員数の配置や内線の完備、インターネット環境の整備さえしていただければ大人数のデメリットはほぼないと思われます。
- ・現在の常勤職員数では、園児の保育7時半～19時(11時間半の保育時間)を網羅するシフトは職員の大きな負担になっている。また、コロナ感染症対策の観点からも、常勤職員増は必須です。

ほぼない  
職員の配置、内線やインターネット環境の整備、職員の不足